

連載企画

自動車リサイクル業界を
担うホープ(12)

名前:山本 一輝 (やまもと かずき) (30歳)

所属:浦和自動車解体株式会社
(埼玉県さいたま市)

担当:国内部品部 生産課

特技:ラジコンカー製作&サーキット走行

MBTI :建築家型(論理と戦略を武器に、何年先
をも見据えた計画を立てる天才的頭脳の持ち主)

— 仕事で誰にも負けない部分

現場改善

— この業界の魅力を一言で

お客様の不要になった物に、新たな価値
を見出すことができること

— 将来の業界への期待

もっと自動車リサイクルについて色んな
方に知ってもらいたい

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。



INDEX

【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ/巻頭言 —— P.1

—新連載—自動車リサイクル業界の転換点を生き残る—— P.2

2025年度自動車リサイクル士認定講習会開催/SPN 総会懇親会/
JAERA 会議報告/JAERA 賛助会員募集中! — P.3

2月新車販売・使用済自動車発生台数 —— P.4

鉄スクラップ最新情報 —— P.5

行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.6

巻頭言

広報部会

永田 則男

ようやく春が訪れ、桜の開花宣言も聞こえ始めました。日本の春は、心を和ませる特別な季節でもあります。ところで、特別といえば日本語の難しさもよく話題にのびります。

例えば、「四月一日は日曜日で祝日、日本は晴れの日でした」という文章があります。日本人であれば誰でも難なく読めるこの文章ですが、外国人は相当勉強した人でも正しく読むことができないと言われていました。その理由は、何度も登場する「日」の読み方がすべて異なる読み方をするためです。外国人にとってはその違いを見分けることは至難の業なのですが、それを私達はすらすらと読めてしまいます。この感覚は長く日本という国に住み続けて初めて身につくものです。日本語は難儀な言語ですが、それを読みこなす私達には日本人特有の性質が染み込んでいるに違いありません。

02

—新連載—

自動車リサイクル業界の転換点を生き残る

ELV台数の減少とその背景（1）

広義における経済学を専門とする筆者らは、モノを製造・販売する動脈産業と、リユース・リサイクル・最終処分といった静脈産業の間には様々な価値や情報が目詰まりしているという「分断型社会」の問題を重視し、その改善方策を追究してきた。今後のサーキュラーエコノミーに関する国際動向や、不安定な国際情勢をふまえると、この分断を乗り越えた「動静脈一体」を目指すことが中・長期的には重要であり、その先に自動車解体業の持続的な発展も展望しうる。

一方で、短期的な視点では、ELVの安定的な確保が重要であるが、実際には、ELV台数の減少が自動車解体業にとって喫緊の課題となっている。コロナ禍前には概ね350万台前後の発生台数で推移していたが、近年は300万台を割り込む状況が続き、2024年は260万台前後にとどまるとされる。自動車リサイクル法施行以降、もっともELV発生台数が少ない状況である。

この理由として、コロナ禍明けで持ち直したとはいえ、新車販売台数が低迷していることや、中古車輸出台数の増加などが指摘されている。確かに、中古車輸出台数は、2024年に過去最高の年約157万台を記録している。表ではこの2024年の中古車輸出上位15か国とそのFOB単価を示した。概ねアフリカ・南米向けの単価が低いことがわかる。なお、台数ではアラブ首長国連邦（UAE）向けが首位となっているが、UAE国内への中古車輸入は困難なので、実際にはアフリカを中心とした周辺国へと再輸出されているとみるべきである。これらの地域向け輸出中古車は低年式車が多く、ELVとの競合が発生していると想定しうる。また、図では地域別の中古車輸出台数の推移を示した。コロナ禍以降、アフリカ向けや中東（UAE）向けがほぼ一貫して増加傾向にあることから同様のことが想定される。

一方で、ELV発生台数と中古車輸出台数は、一方の増加・他方の減少というシンプルな相関関係でもない。表からは1台あたり100万円を超える中古車も多く輸出されていることがわかる。どのような市場でも現地での需要がベースにあるとはいえ、各国で自動車製造業との兼ね合いなどの観点から輸入中古車に対する年式規制が広く行われおり、高年式車しか輸出ができないためである。また、自動車リユース・リサイクル市場の歴史からみると、中古車輸出は将来的な中古部品輸出市場の創出につながると考えられている。筆者らは「自動車リユースとグローバル市場」（外川健一・福田友子・岡本勝規との共著、2017年、成山堂書店）において、中古車輸出が世界大に広がったのが1980年代以降、中古部品輸出については後を追うように1990年代以降からである、とまとめた。各国の中古部品市場は新品とは異なり、多様な年式、車種に対応した補修部品としての幅広い品揃えが求められ、日本発の根強い中古部品需要がグローバルに存在している。このことを背景に、日本の多くの解体業者では、中古部品輸出が、国内中古部品、素材販売とともに経営の三本柱の一つとなっていた。

ELV発生台数の減少に伴い、中古部品輸出が大幅に減少しているような状況であれば、中古車輸出と自動車解体業の競合関係は一層クローズアップされるべきかもしれないが、実際のところはどうなっているのだろうか。中古部品輸出量は公表されている貿易データから直接把握することができないため推計するしかないのだが、筆者なりの手法でこのことを試みた。

次回の記事ではこの手法と結果を紹介する。



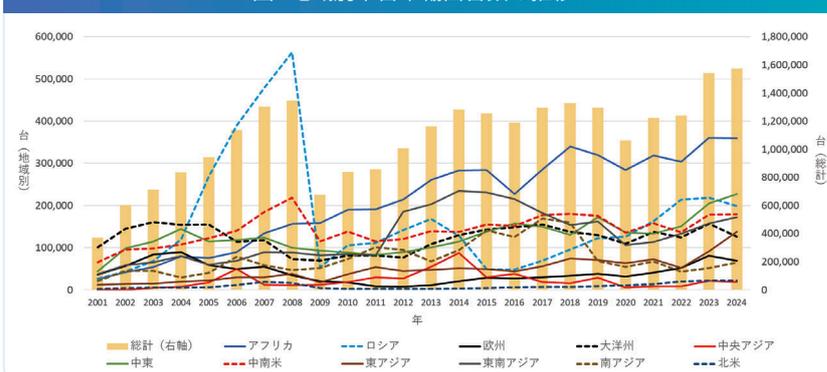
北海学園大学経済学部教授
浅妻 裕

表：2024年の中古車輸出台数上位15か国とその単価

順位	国名	台数	単価（千円）
1	アラブ首長国連邦	226,762	465
2	ロシア	199,085	1,061
3	モンゴル	111,661	960
4	ニュージーランド	81,305	836
5	タンザニア	77,990	629
6	チリ	64,720	390
7	ケニア	63,232	1,134
8	南アフリカ共和国	55,351	399
9	タイ	48,713	1,225
10	フィリピン	41,472	705
11	パキスタン	39,957	1,459
12	マレーシア	38,601	4,223
13	ウガンダ	32,535	741
14	ジャマイカ	32,196	1,155
15	キプロス	27,435	1,561
-	その他	432,364	-
-	合計	1,573,379	978

出典：財務省貿易統計

図：地域別中古車輸出台数の推移



出典：財務省貿易統計

03

▶ 2025年度自動車リサイクル士認定講習会の開催が決定!

2025年度「自動車リサイクル士認定講習会」

自動車リサイクルに携わるあなたへ! 2025年度「自動車リサイクル士認定講習会」の開催が決定しました。

この講習会では、自動車リサイクル法の正しく理解し、適正処理・安全作業・衛生管理など、基礎的な知識を学ぶことができます。普段の作業の意義や重要性を再確認し、業界全体の流れを深く理解する絶好のチャンスです。

2025年度も前回同様、「WEB受講&会場受験」の形式で実施予定です。前回の受講者からは、「日々の作業の位置付けや大切さが分かった」、「会社や業界のことを考えられるようになった」といった声をいただき、新たに229名もの方が資格を取得されました。

自動車リサイクルに関わるすべての方が受講可能です。詳細な日程やお申し込み方法など決まり次第 JAERA ホームページやニュースレターでお伝えいたします!



2024年 福岡会場受験の様子

04

▶ SPN 総会懇親会 / JAERA 会議報告 / JAERA 賛助会員募集

SPN 総会懇親会 —3月26日(木) 東京都文京区—

一般社団法人 SPN の総会懇親会がホテル東京ガーデンパレスで開催され、JAERA から石井代表と阿部専務が出席しました。齊藤理事長の挨拶に始まり、会場では業界の最新動向や課題についてなど活発な意見交換が行われ、参加者同士の交流が深まる有意義な時間が流れていました。当日は新幹線のトラブルに見舞われた方もおりましたが、総勢93名が集まり、終始和やかな雰囲気の中閉会となりました。



齊藤理事長 ご挨拶



石井代表 挨拶の様子

東北ブロック会議

—3月10日(月) 宮城県仙台市—

機構本部から石井代表が出席し、廃車の入庫が厳しい状況が続くなかで、JAERA が取り組むべき課題や今後の方向性について説明や意見交換が行われた。その他、東北ブロック独自の共同出荷事業など地域単位での活動に余地がないかと平地ブロック長から提案が挙がり、今後の取り組みについて意見が交わされた。



会議の様子

中国・四国ブロック会議

—3月25日(火) 岡山県岡山市—

本部の活動報告の共有が中心となった今回は各支部などから9名が集まり、機構本部から奥野事務局長が出席した。また、3月の入庫状況が悪いといった声があるなかで、他事業の展開など、現状で各社が今何を注力しているかについて活発な情報交換が行われた。次回は事業所見学を兼ねたブロック会議を行うこととなり閉会となった。



会議の様子

JAERA 賛助会員募集中!

詳細・お申し込みはこちら

JAERA では、業界の発展や持続可能なリサイクルを支える JAERA の活動に賛同いただける賛助会員を募集しています!

ご入会いただくことで、ニュースレターなど広報媒体での企業紹介&プロモーションのサービスや、全国各地で行われる会議にも参加可能となることでネットワークの構築をいただけるなど、全国組織ならではの様々なメリットをご提供いたします。

2024年は25社もの企業様に新規ご入会をいただき、賛助会員として全39社の皆様から JAERA を応援いただいています。ぜひ JAERA の活動にご賛同いただき、私たちとともに業界の発展に貢献しませんか?

【会員一覧】 <https://www.elv.or.jp/22-52-0.html>

05

2024年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業
2月出荷状況と今期累計

上段：1月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス20	プリウス30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	ローラアクシオ /フィルター	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
23	47	48	0	0	38	2	0	1
76	154	481	4	1	502	7	8	19

SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタHV	プリウス50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品A~C	合計
0	0	1	0	0	1	0	34	172
9	7	21	4	6	1	0	191	1415

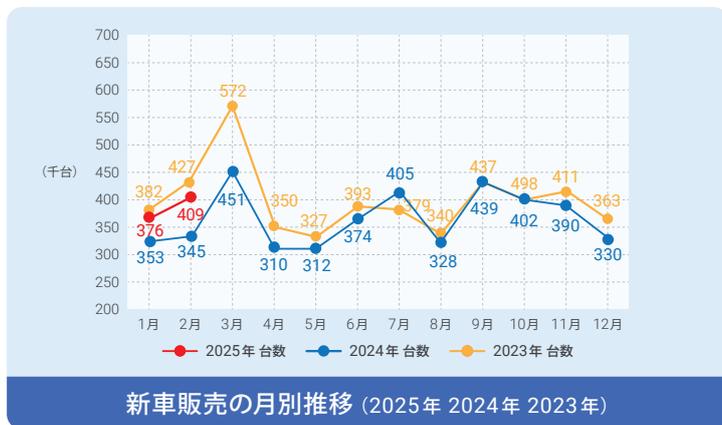
2023年度の結果はこちら ▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1906>

06

2月新車販売・使用済自動車発生台数

新車販売台数は前年越えの一方、使用済自動車引取台数は異例の20万台割れ

■2025年2月度 新車販売台数 409,347台 (前年同月比118.7%)



※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

年累計	台数	前年比 (%)
2025年 (2月まで)	785,605	115.6
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

■2025年2月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

引取件数	
2月	188,983件 (前年同月比87.7%)
フロン回収工程	
2月	168,492件 (前年同月比88.0%)
解体工程	
2月	193,999件 (前年同月比88.2%)

07

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

3月第5週（25日）の鉄スクラップ動向



3月24日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	39,500 ~ 41,000	様子見
	南関東	39,500 ~ 41,000	様子見
	浜値	40,000 ~ 41,500	様子見
名古屋		39,000 ~ 40,500	様子見
関西	大阪	41,000 ~ 42,500	強含み
	姫路	42,500 ~ 43,500	値上がり

東京製鉄、西3拠点を値上げ、九州特級43,000円 拠点間価格差が拡大

東京製鉄は3月22日から、鉄スクラップ購入価格を岡山工場で1トあたり500円、高松鉄鋼センターと九州工場で1,000円値上げした。岡山と九州は2月14日以来2回連続、高松は昨年10月10日以来の値上げ改定になった。その他拠点は据え置いた。特級価格は九州工場が43,000円、岡山工場が42,500円に変わり、田原工場40,500円、宇都宮工場40,000円との価格差が拡大した。

岡山工場と九州工場は比較的安定した生産が見込まれ、特に九州工場は鉄スクラップの調達を強めている。3月17日に発表した製品価格は、ホットコイルなどが値下りした一方で、九州工場で製造する形鋼や厚板は据え置きとなった。

また、日本産鉄スクラップ輸出市場ではH2交渉価格がFOB・43,000円以上に達した。円安傾向や日本側のオファー価格の上昇を受けて成約価格は強含み推移となっている。今回の東京製鉄の値上げは鉄スクラップの海外流出に対応したかたちにもなった。

東京製鉄3拠点の価格改定を受けて、姫路と岡山の一部、北海道のメーカーで500円、九州・山口のメーカーで1,000円の値上げ対応が進んだ。

関東 北海道500円上昇、その他は様子見

東日本市場では、東京製鉄・岡山工場の値上げを受けて、北海道電炉が購入価格を21日から1トあたり500円値上げした。北海道の値上げは3月14～19日の1,000円上昇以来。同地区のH2炉前実勢価格は38,500～39,500円中心となった。一方、関東、東北、新潟の3地区は表立った動きが無い。関東地区のH2炉前実勢価格は39,500～40,500円中心、高値41,000円見当。H2浜値は40,000～41,000円中心、高値41,500円見当。

東海 電炉筋、慎重姿勢崩さず様子見商状

東海市場の鉄スクラップ市況は様子見商状の推移を続けている。海外・輸出市場が堅調な相場展開を見せる中、西日本電炉の間に3月22日から鉄スクラップ購入価格を値上げ改定する動きが広がったが、東海電炉は慎重な購入姿勢を崩しておらず、購入価格を据え置いたままだ。H2炉前実勢価格は39,000～40,500円中心。1月下旬の値下げ改定以降、概ね様子見横ばいの推移を続けている。

大阪 姫路以西22日の東鉄値上げで市況は一段高

東京製鉄は3月22日から岡山工場で一貫500円、高松鉄鋼センターと九州工場で一貫1,000円の追加値上げを実施し、岡山・特級が42,500円、九州・特級が43,000円へ持ち上がった。九州および山口地区では各社とも一律1,000円の追加値上げが波及。姫路地区も各社が追随した。H2炉前実勢価格は、大阪地区が41,000～42,500円中心。九州地区は43,000円中心、姫路地区は42,500～43,500円見当へ切り上がった。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月24日午前時点のもの)

8

お知らせ 自動車再資源化協力機構より

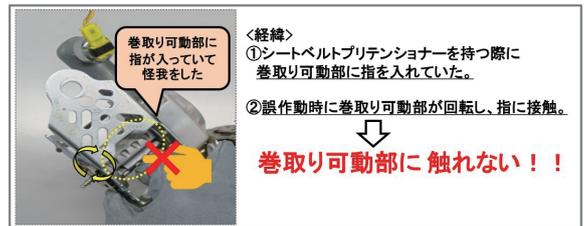
シートベルトプリテンショナーの巻取り可動部に触れないようご注意ください!

平素はエアバッグ類の適正処理にご尽力いただきありがとうございます。

先般お知らせしたとおり、再資源化施設にてシートベルトプリテンショナーの誤作動により、作業担当者が怪我をした事故が発生しております。(誤作動原因は調査中)

シートベルトプリテンショナー取り扱い時は、万が一の怪我防止のため、巻取り可動部に触れないようご注意ください。また、適正処理情報に基づく作業(安全装備・ショート徹底)の継続実施もお願いします。

詳細は[こちら](#)(自動車再資源化協力機構 HP 内)



編集後記

昨年、この編集後記で、自分のスケジュール管理はスマホなどデジタルではなく手書きの手帳に記していると書きました。時代はデジタルの波に押され、この先手帳を使う人がますます減ってしまうのかと憂っていました。

ところが、大型販売店の情報によると、昨年手帳市場に出品された数はなんと2,600種類もあったようです。スマホなどでのスケジュール管理が一般的になり、売り上げが低迷するなど、いわゆる手帳離れが危惧されましたが、「自分だけの事柄にこだわりを持って自分の手で書き込む」という価値に共感するファンが増え、手帳人気が盛り返してきたようです。

年末の手帳売り場前で、じっくりと吟味をし、小一時間もかけてやっとお気に入りの一冊を見つけ出す人もいれば、私のように時間をかけずに毎年同じでこだわりのある手帳を選ぶ人もいます。手帳は個人のライフスタイルに寄り添い、プライベートな領域に深く関わる重要な存在ではないかなと思います。

今年ももう4分の1が過ぎました。相棒である手帳を開きながら、「毎日が穏やかであるように」、「1日1日を丁寧に送ることができるように」と自分自身に言い聞かせています。

広報部会長 田村 幸男

4 月の主な行事予定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

8日(火) | 第1回広報部会 (WEB)

17日(金) | J-FAR (資源回収インセンティブ実装事業) 定例会 (対面)

24日(木) | J-FAR (異常電池適正処理) 定例会 (WEB)

